

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年8月12日（月）～8月18日（日）〔平成25年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎 でした。
 手足口病は定点当たり7.05人と前週（10.41）より患者報告数は減少しましたが、流行発生警報基準値（定点当たり5人）を超え、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナは定点当たり2.52人と前週（2.94）より報告数は減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 第33週については、お盆休みが重なり、多くの医療機関が休診であったため、全体的に患者報告数が少ない状況となっています。



「正しい手洗い」を実践していますか？



こんなとき、手を洗いましょう！

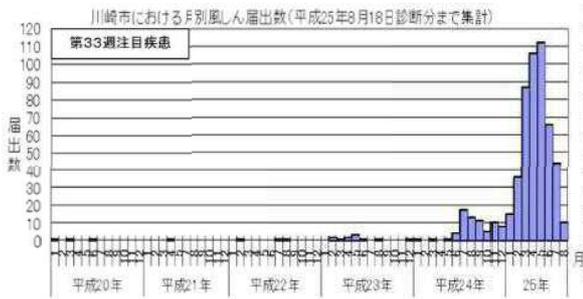
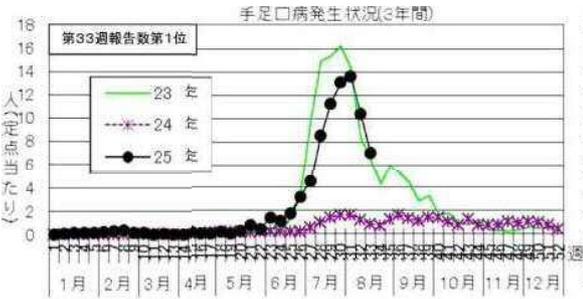
- ①帰宅時
 - ②トイレの後
 - ③食品を取り扱う時
 - ④食事の前
 - ⑤咳やくしゃみを手で押さえた後
 - ⑥オムツ交換時 など
- ※手洗いの際には、指輪などのアクセサリー類を外しましょう。



まだまだ暑い日が続く、腸管出血性大腸菌感染症などの食中毒には引き続き注意が必要です。最も基本的かつ効果的な予防対策は「正しい手洗い」です。



【注意！】洗い残しやすい場所



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年8月19日（月）～8月25日（日）〔平成25年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナ でした。
 手足口病は定点当たり4.81人と前週（7.05）より患者報告数は減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎は定点当たり4.03人と前週（2.38）より報告数が増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が7件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成のお知らせ

川崎市では、風しん流行に伴うワクチン接種費用助成について、全国的なワクチン不足により、7月5日から一時的に対象者を「妊娠している女性の夫」に限定して実施してきましたが、この度、ワクチンの必要量が確保できる見通しとなったため、9月2日から対象者の限定を解除（再開）します。さらに、当初9月30日までとしていた実施期間を延長し、11月30日まで本事業を継続します。

事業の対象者

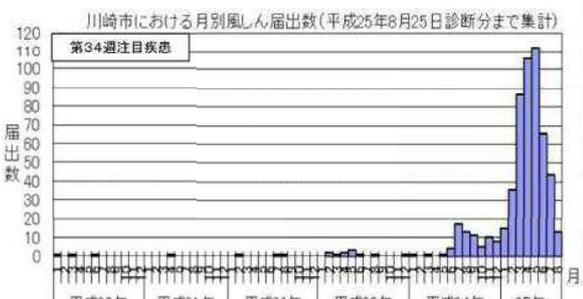
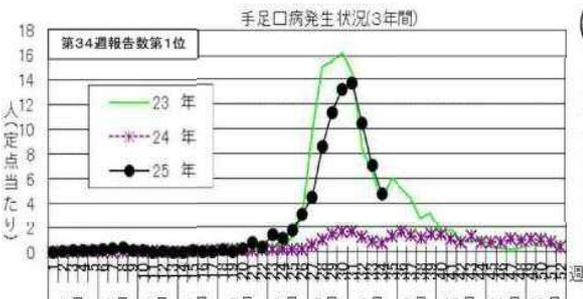
川崎市民で、原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方で次のア～ウのいずれかに該当する方

- ア 妊娠している女性の夫（児の父親） **継続**
- イ 23～39歳の男性（昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ） **再開！！**
- ウ 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性（平成2年4月1日以前生まれ）

接種期限 期間延長！
 平成25年11月30日（土）まで

接種費用
 2,000円程度（通常は1万円程度）

妊娠中の方は接種が出来ません。また、女性は接種後2か月間は避妊する必要があります。詳細は、お住まいの区の区役所保健福祉センター・地域保健福祉課までお問い合わせください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
 (問い合わせ先) 健康安全研究所: 044-276-8250 (麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く。)
 ※麻しん風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものは各区役所保健福祉センター・地域保健福祉課へ御連絡ください。

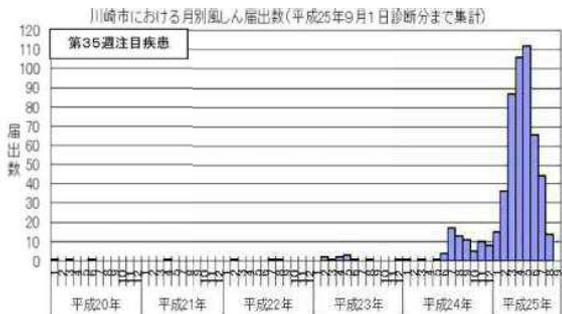
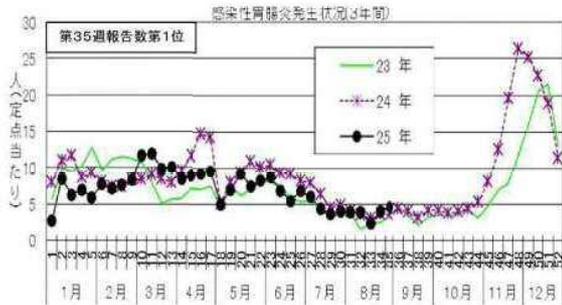
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年8月26日(月)～9月1日(日)〔平成25年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナ でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり4.61人と前週(4.03)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり3.91人と前週(4.81)より報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が11件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。

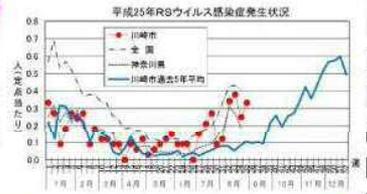


「RSウイルス感染症」～秋から冬を中心に流行する感染症～

RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。例年12月頃に流行のピークを迎えますが、現在、全国的に過去最多(平成15年のデータ収集開始以降)のペースで報告数が増加しており、川崎市も同様の傾向であるため、今後注意が必要です。

RSウイルス感染症はどんな症状？

潜伏期間は3～5日で、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が出ます。また、乳児患者の10～40%が呼吸困難などの下気道炎を起こすといわれています。さらに、心臓や肺に基礎疾患をもつ小児は、重症化のリスクが高くなります。



RSウイルス感染症を予防しよう！！



患者の鼻水や咳などから感染するので、手洗いの徹底やマスク着用などの「咳エチケット」を心がけましょう。
 また、流行期(特に冬場)に乳幼児を連れて外出する際には、人ごみを避けましょう。

上のグラフのとおり、報告数が例年よりも早い段階から増加しています。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

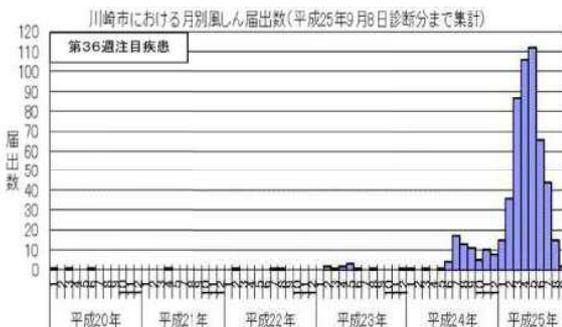
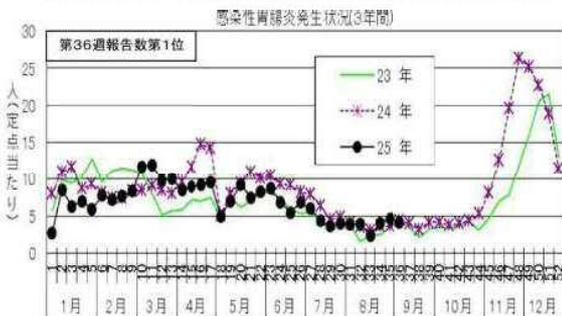
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年9月2日(月)～9月8日(日)〔平成25年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナ でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり4.12人と前週(4.61)より患者報告数は減少し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり3.30人と前週(3.91)より報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が4件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



感染症の基礎知識～慢性疾患がある方は特に注意～

インフルエンザをはじめとする多くの感染症は、慢性疾患を持つ方がかかると、通常よりも重症化のリスクが高いといわれています。

ぜん息、糖尿病、心臓病など、慢性の病気をお持ちの方は、主治医とよく相談し、流行期の前に体調を管理しておきましょう。

何よりも「予防」が大切！！

- ①うがいと手洗い
- ②咳エチケット
- ③人ごみを避ける
- ④十分な睡眠



予防接種を効果的に活用しよう！！

インフルエンザなどの感染症は、予防接種を受けることで感染を予防したり、症状を軽減することができます。流行期の前に、早めの接種を検討しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

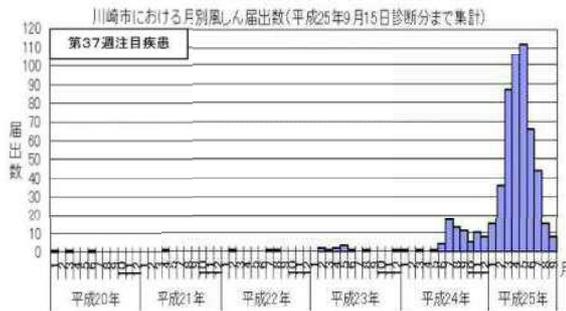
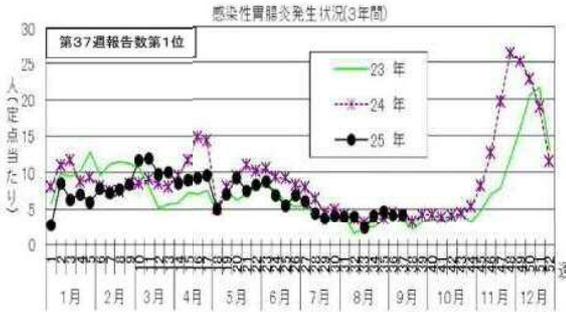
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年9月9日(月)～9月15日(日)〔平成25年第37週〕の感染症発生状況

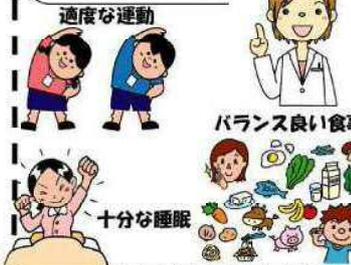
第37週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染症性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナ でした。
 感染症性胃腸炎は定点当たり4.09人と前週(4.12)より患者報告数はわずかに減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり2.27人と前週(3.30)より報告数はわずかに減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナは定点当たり1.42人と前週(1.61)より報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



長引くかぜ？ 結核かも！ 結核予防週間 9月24日～9月30日

日本は結核の「中まん延国」と言われています。高齢者に多い病気ですが、若い世代の集団感染も問題になっており、結核は依然として重大な感染症です。正しい知識を身につけ、感染を防ぎましょう。

平成23年は国内で22,681人の新規結核患者が登録され、2,166人が死亡しました。患者は都市部に多く、市内では特に川崎区における罹患率が高くなっています。



結核とは・・・？

結核は、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。咳やくしゃみから空気感染をおこします。

初期症状はかぜと似ていますが、長引く咳、痰や微熱などが特徴です。かぜのような症状が長く続くようなら、医療機関を受診しましょう。結核のまん延を防ぐためにも、早期発見、早期治療が重要です。

また、小児における結核の予防にはBCG接種が有効で、おすすめの接種時期は生後5～8か月の間です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

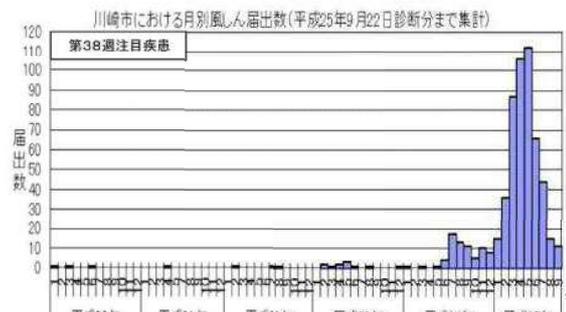
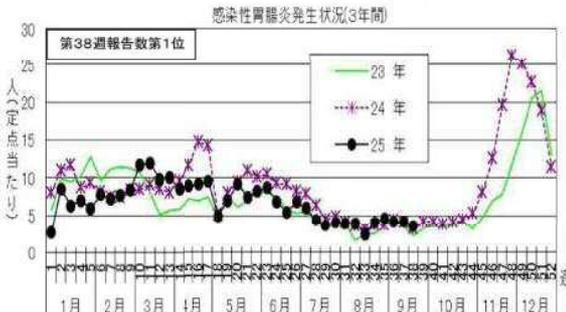
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年9月16日(月)～9月22日(日)〔平成25年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染症性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナ でした。
 感染症性胃腸炎は定点当たり3.52人と前週(4.09)より患者報告数は減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり1.76人と前週(2.27)より報告数は減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナは定点当たり0.94人と前週(1.42)より報告数は減少しましたが、例年よりやや高いレベルで推移しています。



今後の流行に注意！！～RSウイルス感染症～

例年、秋から冬にかけてRSウイルス感染症の患者が増加しますが、今年は、すでに患者報告数が増加しています。
 ほとんどの乳幼児が2歳までに感染し、特に心臓や肺に基礎疾患をもつ小児は、重症化のリスクが高くなりますので注意が必要です。



どうやって感染するの？

RSウイルスに感染している人の咳やくしゃみ、会話をした際に飛び散るしぶきから感染します。また、ウイルスがついている手指や物(ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ等)を触ったり、なめたりすることでも感染します。

何に注意すればいいの？

乳幼児と接触する際、咳などの呼吸器症状がある場合は、流行時期はもちろんのこと、流行時期でなくても、マスクを着用することが大切です。また、おもちゃや手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒してください。
※塩素系の消毒剤を使用する際には、使用上の注意を十分御確認ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年9月23日(月)～9月29日(日) [平成25年第39週] の感染症発生状況

第39週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) 突発性発疹 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり2.91人と前週(3.52)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり0.85人と前週(1.76)より報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症(O157)の届出が1件ありました。届出数は減少傾向にありますが、引き続き注意が必要です。



高齢者インフルエンザ予防接種事業を開始しました！！

インフルエンザは、例年12～2月を中心に流行します。感染を予防するためには、流行期前に予防接種を受けることが大切です。特に、高齢者の方はインフルエンザに感染すると重症化しやすいため、注意が必要です。

高齢者インフルエンザ予防接種事業概要

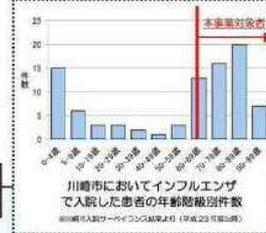
1 実施期間 平成25年10月1日～12月31日

2 対象者 以下の3つを全て満たす方

- ・川崎市内にお住まいの方
- ・接種日に、満65歳以上の方、又は満60～65歳未満で障害等級1級程度の障害(心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害又はHIVによる免疫機能障害)のある方
- ・接種を受けようとする本人が接種を希望していること

3 自己負担金 1,500円 (接種を受けた医療機関にお支払いください。)

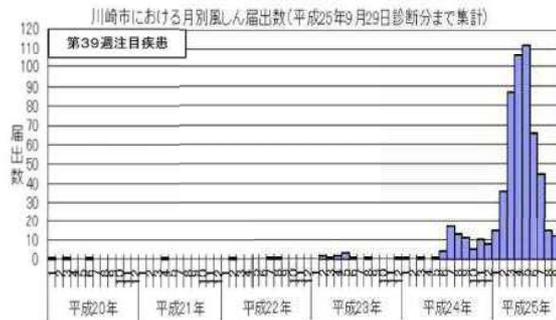
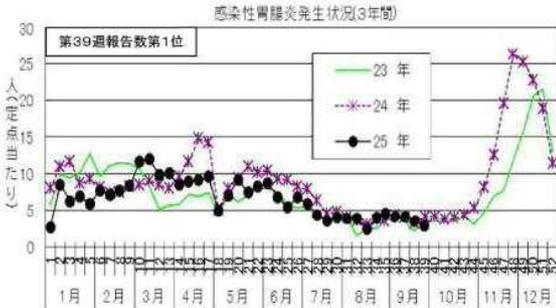
(ただし、次のア～ウのいずれかに該当する方は接種費用が無料になりますので、接種を受ける前にお問い合わせください。)
 ア 生活保護世帯に属する方
 イ 市・県民税非課税世帯(世帯全員が非課税)に属する方
 ウ 中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律に基づく支援給付を受けている方



本事業に関するお問い合わせは、お住まいの区の区役所地域保健福祉課までご連絡ください。

4 接種場所 川崎市予防接種個別協力医療機関(市内約600施設)

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250 (高齢者インフルエンザ予防接種事業に関するものを除く。)



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年9月30日(月)～10月6日(日) [平成25年第40週] の感染症発生状況

第40週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり3.67人と前週(2.91)より患者報告数は増加しましたが、例年よりやや低いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり1.12人と前週(0.85)より報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症(O157)の届出が3件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。

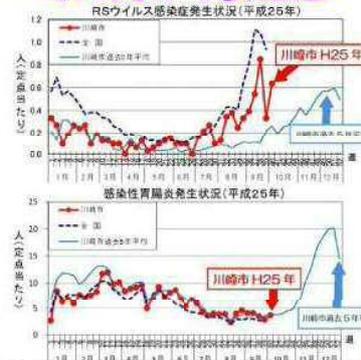


10月15日は「世界手洗いの日」

公益財団法人日本ユニセフ協会等により、毎年10月15日は「世界手洗いの日」(Global Handwashing Day)と定められています。これから年末に向け、RSウイルス感染症及び感染性胃腸炎等が流行することが推測されます。是非この機会に、感染症予防の基本である「毎日の手洗い方法」について見直してみましょう。

～冬に向けて要注意～

手洗いのポイント

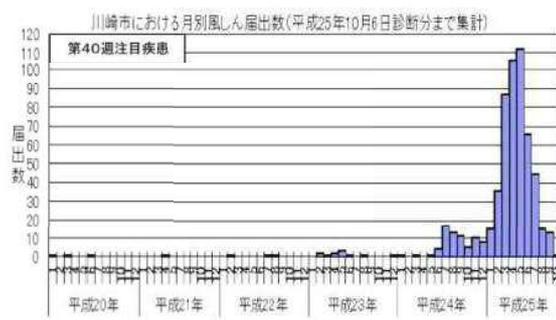
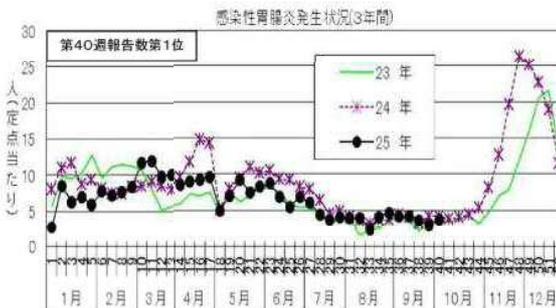


手を洗う箇所

- ① 手のひらと手のこう
- ② 爪のすきま
- ③ 親指のまわり
- ④ 指の間
- ⑤ 手首

手を洗うタイミング

- ① 帰宅時
- ② トイレの後
- ③ 食品を取り扱う時
- ④ 食事の前
- ⑤ 咳やくしゃみを手で押さえた後
- ⑥ オムツ交換時 など



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250 (高齢者インフルエンザ予防接種事業に関するものを除く。)

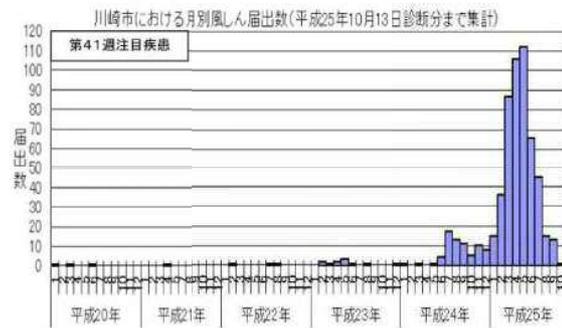
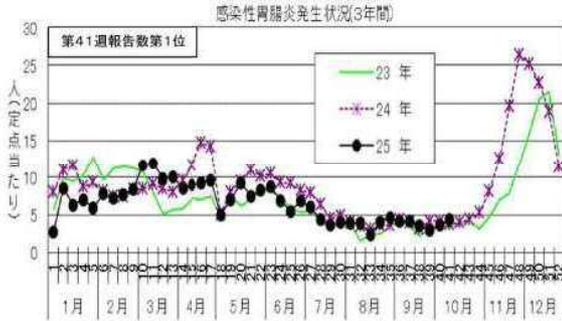
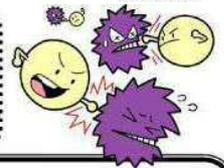
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年10月7日(月)～10月13日(日) [平成25年第41週] の感染症発生状況

第41週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。感染性胃腸炎は定点当たり4.30人と前週(3.67)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。手足口病は定点当たり1.70人と前週(1.12)より報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。腸管出血性大腸菌感染症(O157)の届出が10件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



冬に向けて注意しましょう！～感染性胃腸炎の流行～



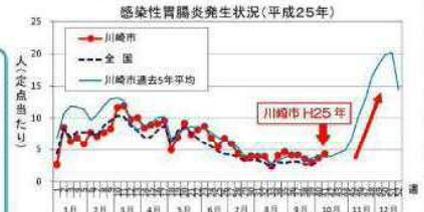
感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などを原因として、下痢やおう吐などの症状がでる感染症です。秋から冬にかけて流行するものほとんどはウイルスが原因であり、これからの時期はノロウイルスによるものが増えます。

感染を防ぐために・・・

手洗いが基本です。また、患者の便やおう吐物は乾燥して舞い上がらないように早めに片付け、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)などで消毒してください。

かかってしまったら・・・

頻回の下痢やおう吐により、体内の水分を多く失いますので、水分補給はこまめに行いましょう。特に、乳幼児や高齢者は脱水をおこしやすいので注意しましょう。



上のグラフのとおり、例年12月を中心に患者報告数が増加します。これから冬季に向けて、予防対策を徹底する必要があります。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所) (問い合わせ先) 044-276-8250

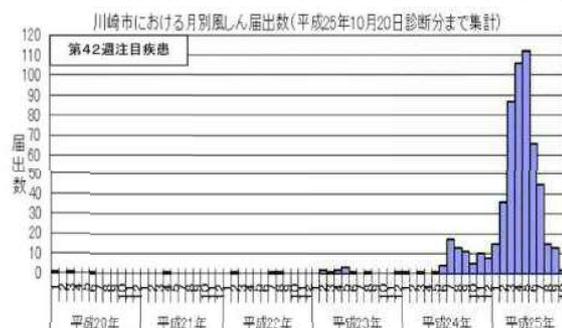
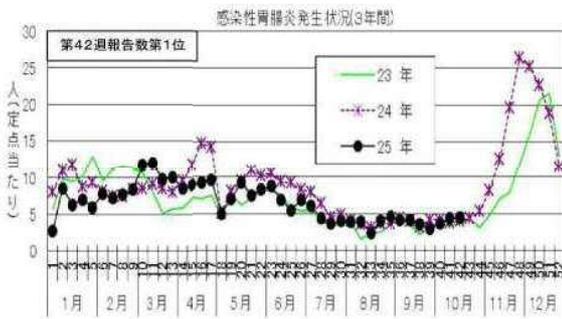
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年10月14日(月)～10月20日(日) [平成25年第42週] の感染症発生状況

第42週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。感染性胃腸炎は定点当たり4.42人と前週(4.30)より患者報告数はわずかに増加し、例年より高いレベルで推移しています。手足口病は定点当たり1.70人と前週(1.70)から報告数は横ばいですが、例年より高いレベルで推移しています。腸管出血性大腸菌感染症(O157)の届出が6件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



ご存知ですか!? 『咳(せき)エチケット』～感染させない心配り～

これからインフルエンザなどの感染症が流行する時期に入ります。事前の予防接種等による予防も大切ですが、自分が感染した場合、他人に感染させないための『咳エチケット』等を徹底する必要があります。咳エチケットの方法をご紹介しますので、日常的に実践するよう心がけましょう。

～みんなで咳エチケット～

1 マスクを着用する

咳やくしゃみが出ている間はマスクを着用し、使用後のマスクは放置せずにごみ箱に捨てましょう。

2 周囲の人からなるべく離れる

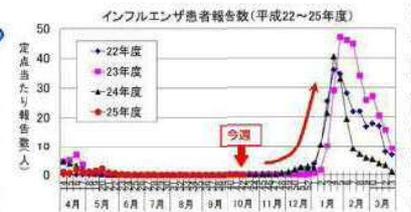
くしゃみや咳の飛沫(しぶき)は、1～2m飛ぶと言われています。

3 口と鼻を覆う

しぶきが周囲にかからないように顔をそむけ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。ティッシュはすぐにごみ箱に捨てましょう。

4 こまめに手洗い

咳やくしゃみを押さえた腕や手から、周囲の物にウイルスを付着させないために、特にインフルエンザなどに感染した人はこまめに手を洗いましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年10月21日(月)～10月27日(日)〔平成25年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) RSウイルス感染症 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.30人と前週(4.42)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり1.03人と前週(1.70)から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症(O145)の届出が1件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



特に乳児は要注意！！～RSウイルス感染症～

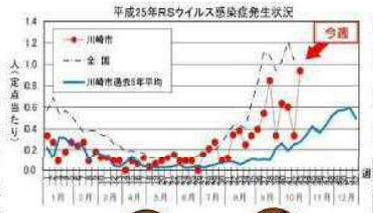
RSウイルス感染症(respiratory syncytial virus infection)は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。RSウイルスは世界中に分布しており、日本では例年12月を中心に流行します。今年は、全国及び川崎市において、例年を越える勢いで患者数が増加していますので、注意が必要です。



？ どんな症状が出るの？

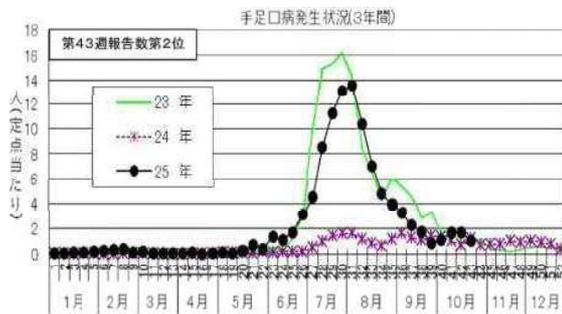
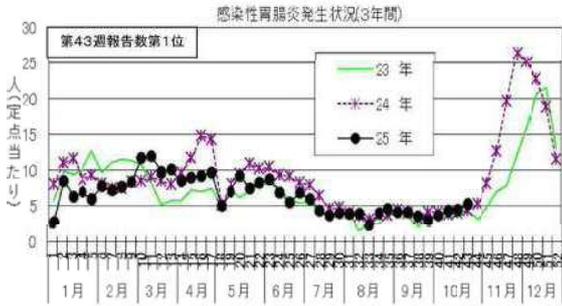
RSウイルスに感染すると、2～8日の潜伏期間において、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くのお子さんは、鼻汁などの上気道炎症症状のみで数日のうちに改善しますが、初めて感染する乳幼児の約3割では咳などが悪化し、喘鳴、呼吸困難症状などが出現します。特に生後1か月未満の乳児では無呼吸発作を起こすこともあり要注意です。

重症化リスクの高い基礎疾患を有する小児(特に早産児や生後24か月以下で心臓・肺・神経・筋疾患や免疫不全の基礎疾患がある小児等)や、生後3か月以内の乳児は特に注意が必要です。



～手洗い・マスクを徹底しましょう～

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年10月28日(月)～11月3日(日)〔平成25年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり6.24人と前週(5.30)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり1.82人と前週(1.03)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症(O145)の届出が1件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。

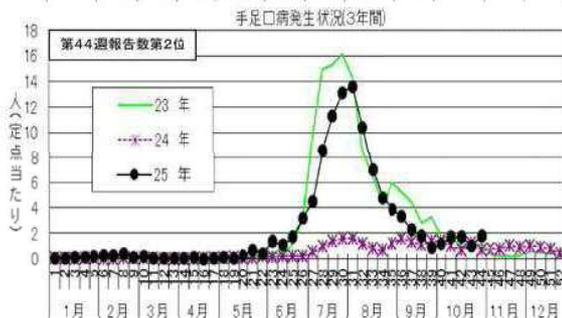
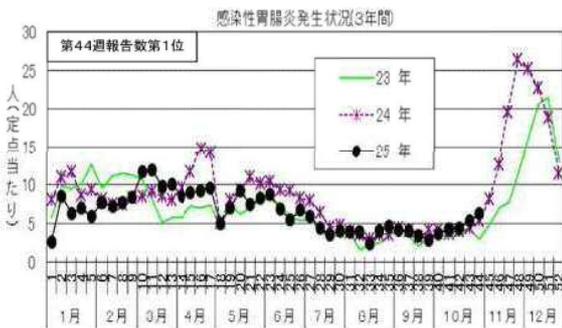
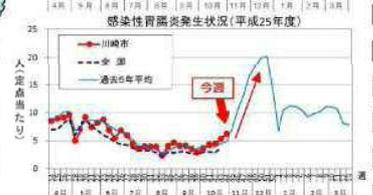
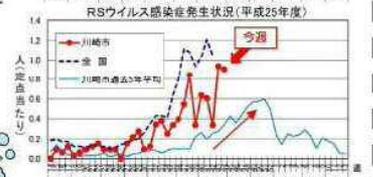


冬に向けて流行する感染症にご注意ください！！

例年、この時期から、「インフルエンザ」「RSウイルス感染症」「感染性胃腸炎」等の患者報告数が徐々に増加し始めます。年末年始やクリスマスのイベント等で大勢が集まる機会も増えると思います。しっかりと体調を管理して、楽しい冬を過ごしましょう。

予防するにはどうしたらいいの？

- ・帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめな手洗いを心がける。
 - ・十分な睡眠とバランスのよい食事を徹底する。
 - ・加湿器などを使用し、適度な湿度(50～60%)を保つ。
 - ・インフルエンザなどワクチンで予防できる感染症については、流行期前に予防接種を受ける。
- ※インフルエンザの場合、ワクチン接種による効果が発現するまでに2週間程度を要するため、毎年12月中旬までにワクチン接種を終えましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



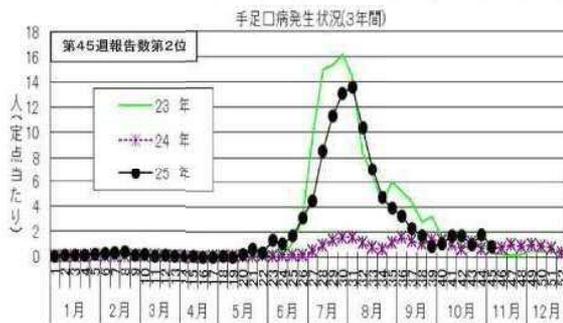
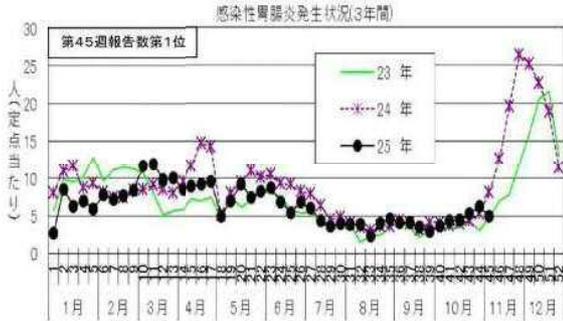
平成25年11月4日(月)～11月10日(日) [平成25年第45週] の感染症発生状況

第45週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) RSウイルス感染症・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発疹 でした。

感染性胃腸炎は定点当たり5.00人と前週(6.24)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

手足口病は定点当たり0.85人と前週(1.82)より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

※第44週本報中 世：平成25年10月28日(月)～11月6日(日) [平成25年第44週] → 正：平成25年10月28日(月)～11月3日(日) [平成25年第44週]



胃腸炎対策を徹底しましょう！！

今年の胃腸炎流行の特徴は・・・？

例年、腸管出血性大腸菌やカンピロバクターなどを原因とする食中毒は夏場を過ぎると減少してきますが、今年はいまだに腸管出血性大腸菌感染症が発生している状況です。

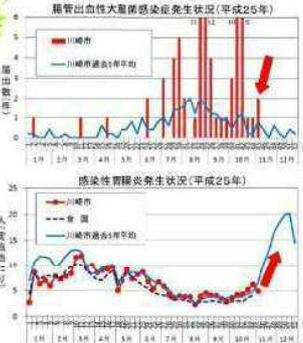
一方、ノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎の患者数は、例年11月頃から急激に増加します。

これから増える感染性胃腸炎だけでなく、まだ発生している腸管出血性大腸菌などにも注意して、胃腸炎の対策を徹底しましょう。

こんなことに注意して！

～ノロウイルス対策を中心に～

こまめな手洗いや食品等の加熱(85～90℃で90秒間以上)が基本です。また、患者の便やおう吐物は乾燥しないうちに早めにペーパータオル等で静かに拭き取り、拭き取った後は、0.02%の次亜塩素酸ナトリウム：約0.02%で浸すように拭き、その後水拭きをしましょう。



感染性胃腸炎の流行状況だけでなく、腸管出血性大腸菌感染症の発生状況にも注意が必要です。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

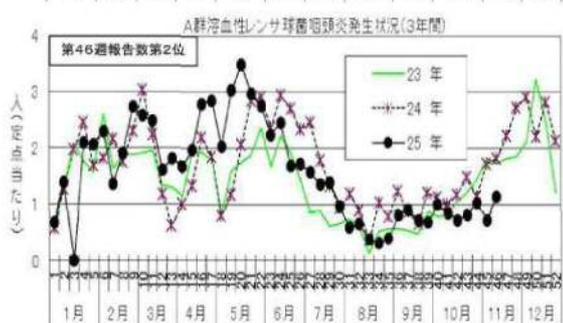
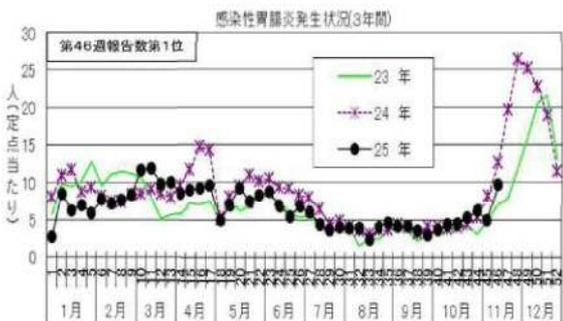


平成25年11月11日(月)～11月17日(日) [平成25年第46週] の感染症発生状況

第46週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。

感染性胃腸炎は定点当たり9.64人と前週(5.00)より患者報告数は増加しており、12月に向けて急激な増加が推測されます。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.15人と前週(0.73)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

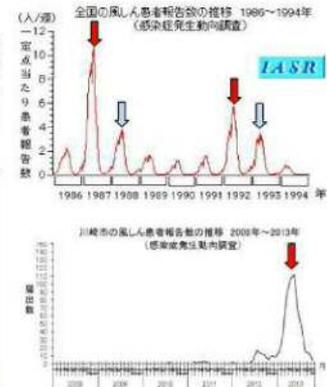


麻疹風しん混合ワクチン接種費用助成～実施期間再延長～

風しんは、例年春に流行する傾向があります。また、大きな流行のあった翌年も例年より高いレベルで流行する傾向がありますので、平成26年も引き続き風しんには注意が必要です。

川崎市では、11月30日までとしていた麻疹風しん混合ワクチン接種費用助成期間を平成26年3月31日まで延長します。まだ接種を受けていない方は、是非この期間にワクチンの接種をご検討ください。

事業の対象者 ※接種費用は2,000円程度です。
川崎市民で、原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方で次のいずれかに該当する方
ア 妊娠している女性の夫(児の父親)
イ 23～39歳の男性(昭和49年4月2日～平成2年4月1日生まれ)
ウ 23歳以上の妊娠を予定又は希望している女性(平成2年4月1日以前生まれ)
平成25年10月までに20,026名の方が本事業によりワクチンを接種しています。



免疫のない女性が妊娠中に風しんに感染すると、先天性心疾患、難聴、白内障などの症状が現れる「先天性風しん症候群」の赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊娠中の方は接種ができません。また、女性は接種後2か月間は避妊する必要があります。



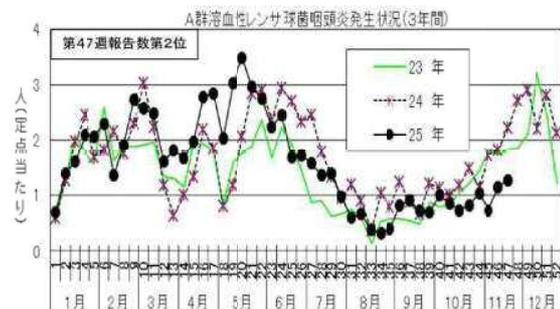
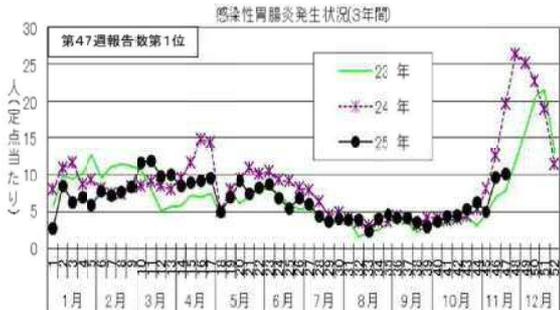
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 健康安全研究所 044-276-8250 (麻疹風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものを除く)
※麻疹風しん混合ワクチン接種費用助成に関するものは各区役所保健福祉センター地球保健福祉課へ御連絡ください。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成25年11月18日(月)～11月24日(日)〔平成25年第47週〕の感染症発生状況

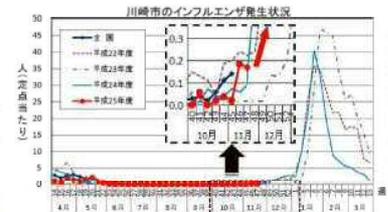
第47週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 咽頭結膜熱 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり10.12人と前週(9.64)より患者報告数は増加しており、12月に向けて急激な増加が推測されます。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.27人と前週(1.15)より患者報告数はわずかに増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



インフルエンザワクチンの接種はお早めに！！

川崎市では、11月以降、インフルエンザの患者報告数が徐々に増えつつあります。また、全国的にもインフルエンザによる学級閉鎖等の報告がみられるため、今後の予防対策が重要です。

インフルエンザは例年12～3月頃に流行します。ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度かかるため、ワクチン接種を予定している方は、早めに接種を受けましょう。



インフルエンザワクチンQ&A

昨年ワクチンの接種を受けましたが今年も受けた方がよいでしょうか？

ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種後2週間から5か月程度までとされています。インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて製造されているため、毎年ワクチン接種を受けた方がよいとされています。

今年のワクチンは何の種類のインフルエンザに効果があるのですか？

- 今年度の季節性インフルエンザワクチンには、以下の3種類が含まれています。
- A/H1N1 亜型 (2009年以降の流行株)
 - A/H3N2 亜型 (いわゆるA香港型)*
 - B型*
- ※昨年度のワクチン株とは異なります

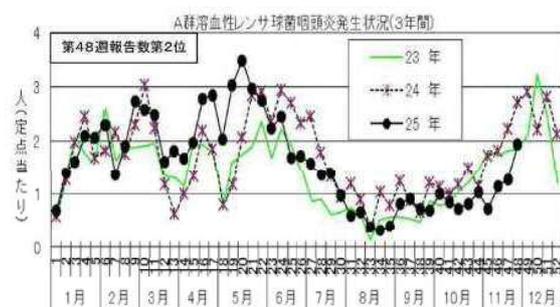
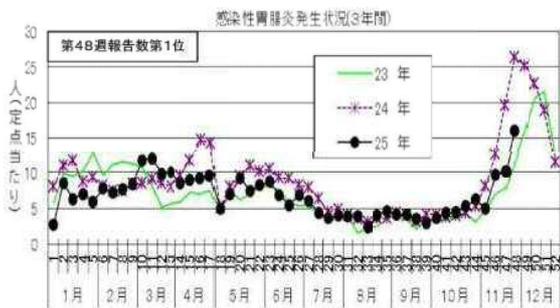
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成25年11月25日(月)～12月1日(日)〔平成25年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり16.36人と前週(10.12)より患者報告数は急増しており、今後の更なる増加に注意が必要です。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週(1.27)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



警報基準値はもう目前！！～感染性胃腸炎の流行～

現在、全国的に感染性胃腸炎患者の増加が見られ、川崎市においても11月以降報告数が急増しています。

川崎市における第48週の定点当たり報告数は16.36人であり、国で定める警報基準値(定点当たり20人)に大きく近づきました。

すでに中原区(20.40)や宮前区(22.40)では警報基準値を超えているため注意が必要です。



この時期の感染性胃腸炎の主な原因「ノロウイルス」

ノロウイルスに感染するとどんな症状がでるの？

潜伏期間は24～48時間で、主な症状は吐き気、おう吐、下痢、腹痛で、発熱は軽度です。通常、これらの症状が1～2日続きます。
 抵抗力が弱い高齢者や乳幼児は、おう吐物をのどに詰まさせたり、下痢で脱水症状がひどくなることがあるため、特に注意が必要です。



ノロウイルス対策
～効果的な加熱方法～

ノロウイルスの汚染のおそれがある二枚貝などの食品では、中心部が85～90℃で90秒以上の加熱を行うことで、ウイルスの感染性をなくすことができます。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

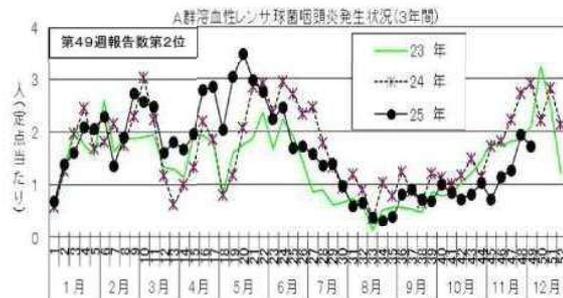
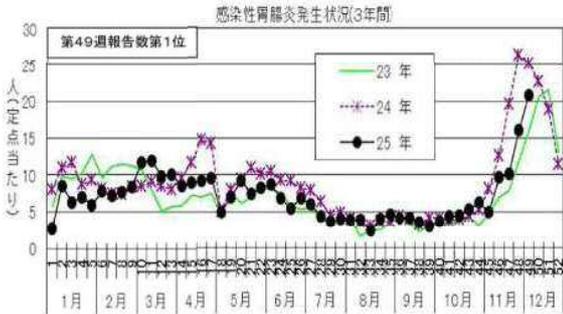
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



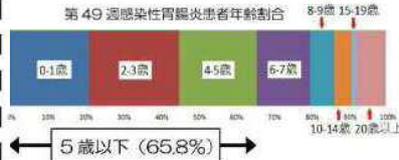
平成25年12月2日(月)～12月8日(日)〔平成25年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり20.76人と前週(16.06)より患者報告数は急増しており、今後の更なる増加に注意が必要です。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.73人と前週(1.94)より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 水痘は定点当たり1.52人と前週(1.42)より患者報告数はわずかに増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

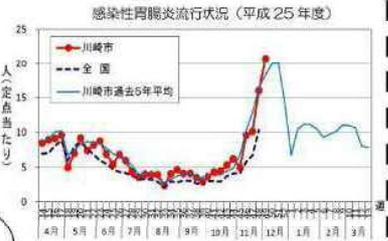


『感染性胃腸炎』流行発生警報発令！！

川崎市では、第49週の感染性胃腸炎患者報告数が定点当たり20.76人となり、国で定める警報基準値(定点当たり20人)を超えたため、**感染性胃腸炎の流行発生警報**を発令しました。今後患者がさらに増える可能性がありますので、注意が必要です。



乳幼児の患者が多く、5歳以下が全体の約7割を占めています。
 保育園や幼稚園などでは、手洗いの徹底、便やおう吐物の処理などに特に気をつけましょう。



※インフルエンザにも注意を！

中原区内の市立小学校において、インフルエンザ様症状の患者が13名発生し、12月11日に今シーズン市内で初めての学級閉鎖が実施されました。
 インフルエンザ患者報告数は、現在全国的に増加傾向にありますので、引き続き予防対策を徹底してください。

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

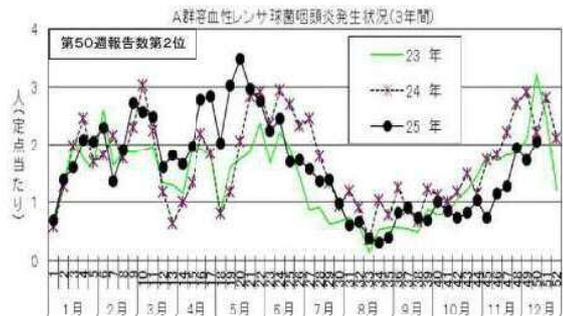
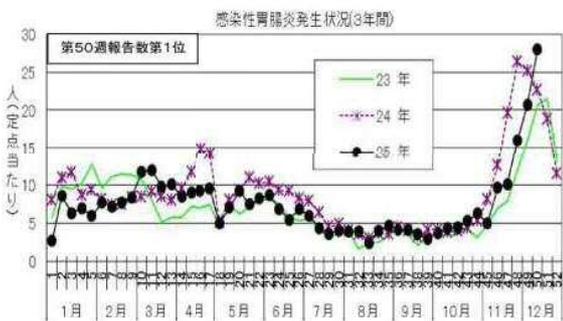
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年12月9日(月)～12月15日(日)〔平成25年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり28.00人と前週(20.76)より患者報告数は急増し、流行発生警報基準値(定点当たり20人)を大きく超え、非常に高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.06人と前週(1.73)より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



過去3番目に大きな流行～感染性胃腸炎～

川崎市において、第50週の感染性胃腸炎患者報告数が定点当たり28.00人となり、平成11年のデータ収集開始以降、平成18年、平成11年に次ぐ過去3番目に大きな流行となっています。なお、この5年間では最も大きな流行です。

今の時期の感染性胃腸炎は「ノロウイルス」を原因としたものがほとんどです。ノロウイルスは感染力が強いため、有効な消毒剤を使用し、予防対策を徹底しましょう。

ノロウイルスに有効な消毒剤は？

ノロウイルスの消毒にはエタノールや逆性石鹸ではあまり効果がなく、完全に消毒するためには、適切な濃度の次亜塩素酸ナトリウム(台所用塩素系漂白剤等)が必要です。

■有効な濃度

使用用途により、有効な濃度が異なります。用途に合わせ使用してください。

日常の清掃 調理台・調理器具など	おう吐物や排泄物などで 高濃度に汚染された場所や物
塩素濃度 0.02%	塩素濃度 0.1%

※市販されている塩素系漂白剤の濃度は様々ですので、確認してから調整しましょう。また、商品に記載されている使用上の注意をよく読んでからご使用ください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

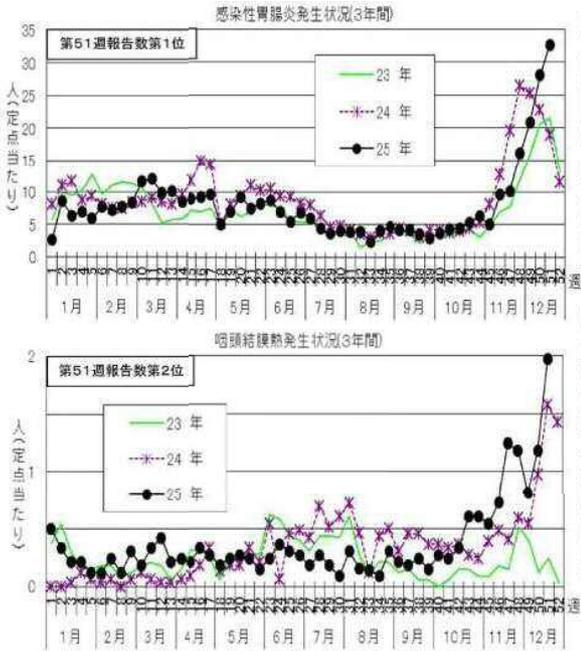
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年12月16日(月)～12月22日(日)【平成25年第51週】の感染症発生状況

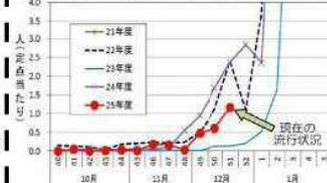
第51週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 咽頭結膜熱 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり32.61人と前週(28.00)より患者報告数は更に増加し、流行発生警報基準値(定点当たり20人)を大きく超え、非常に高いレベルで推移しています。
 インフルエンザは定点当たり1.17人と前週(0.61)より患者報告数は倍増し、流行開始の日安とされている定点当たり1.0人を上回りました。今後の発生動向に注意が必要です。



この冬の感染症。流行状況は？

インフルエンザ

現時点でのインフルエンザ流行状況



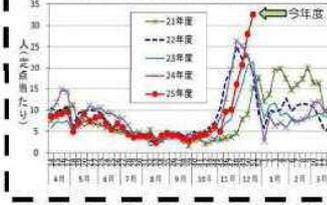
第51週のインフルエンザ患者報告数が定点当たり1.17人となりました。流行開始の日安とされている定点当たり1.0人を上回り、今年もインフルエンザの流行シーズンに入ったと考えられます。

日頃の「手洗い」や「咳エチケット」を心がけましょう。また「ワクチン接種」を受けていない方は早めにご検討ください。



感染性胃腸炎

感染性胃腸炎流行状況(過去5年間)



感染性胃腸炎患者の定点当たり報告数は、第51週に32.61人と、前週に引き続きさらに増加しています。現時点で今年は、平成11年のデータ収集開始以降、平成18年に次ぐ過去2番目に大きな流行となっています。

この時期における感染性胃腸炎の原因の多くは「ノロウイルス」です。食品の加熱やおう吐物の処理方法等に注意が必要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

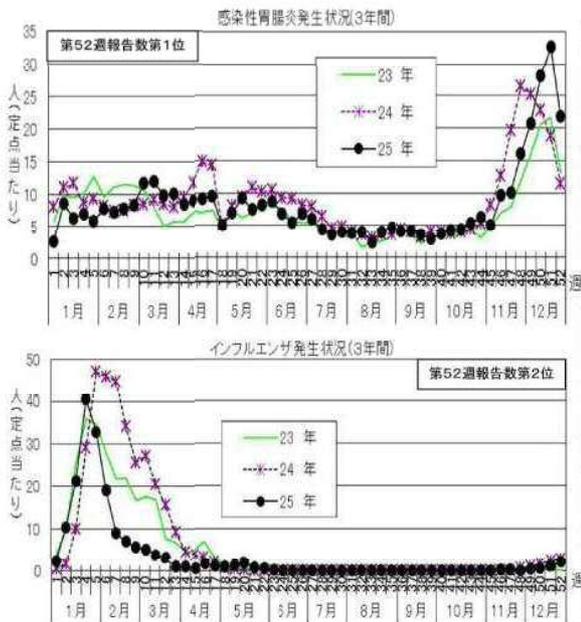
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成25年12月23日(月)～12月29日(日)【平成25年第52週】の感染症発生状況

第52週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり21.76人と前週(32.61)より患者報告数は減少しましたが、流行発生警報基準値(定点当たり20人)を超えています。
 インフルエンザは定点当たり2.13人と前週(1.17)より患者報告数は増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。また、第52週には4件の検体が本市健康安全研究所へ搬入され、インフルエンザウイルス A/H1pdm09 が2件、A/H3 が1件、B型山形系統株が1件検出されました。



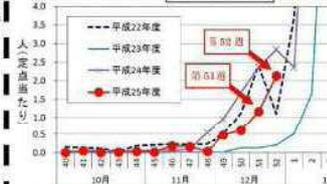
高熱をともなう疾患にご注意ください！！

川崎市では、年末から「インフルエンザ」の流行が始まりましたが、今シーズンはインフルエンザに加えて、夏に流行することの多い「咽頭結膜熱」も例年以上に患者報告数が多くなっています。

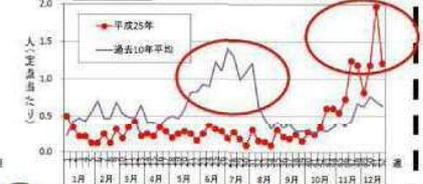
どちらの疾患も、高熱、頭痛や倦怠感など共通の症状が多く、乳幼児や高齢者では重症化することもあるため、注意が必要です。これらの疾患を鑑別するためにも、早めに医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。



現時点までのインフルエンザの流行状況



咽頭結膜熱の流行状況(過去10年平均との比較)



現在、インフルエンザの患者報告数が増加傾向にあり、今後本格的に流行する可能性があります。手洗いや咳エチケットなどを心がけ、予防接種を受けていない方は早めに検討しましょう。

咽頭結膜熱は「プール熱」と呼ばれ、夏風邪の一種とされていますが、近年は冬場に流行する傾向にあり、今年は10月以降に患者報告数が増えています。予防には、インフルエンザと同様に手洗いが重要です。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター(保健所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

川崎市感染症情報センター事業報告書

2015年2月発行

川崎市健康安全研究所 感染症情報センター担当

〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-13 川崎生命科学・環境研究センター2階

TEL 044-276-8641 FAX 044-288-2044

E-mail : 35eiken@city.kawasaki.jp



KAWASAKI CITY

川崎市